

つながるBOOK NEWS

No.2
2019年7月号

◆小橋 信子 さんをお招きし、これまでの活動や経験、日常から役立つ衛生面について語っていただきました

令和元年（2019年）7月18日（木）に長野県社会福祉総合センターで、「第1回つながるBOOK」を開催しました。9名が参加し、小橋さんが普段どのような活動をされているか、災害ボランティアや避難所等で役に立つマスクの使い方や手袋の脱ぎ方についてお話していただきました。その中でも、民生委員研修の一環で倉敷市真備町に行った際に、現地の方から聞いたお話がとても印象的でした。声をかけたが、「私は大丈夫」と言って一緒に避難しなかった方が亡くなってしまい、自分に何かできたんじゃないかと今でも後悔されている方がいるとのこと。亡くなった方はもちろんですが、生き残った方にも爪痕を残してしまうのが災害。また、地区で防災訓練を実施していたところは死者が0だったというお話もしていただきました。私たちも、地域で本当に避難できるよう、被害にあわないよう声を掛け合えるよう、防災・減災に取り組んでいきたいと語っていただきました。

◆一番人気の“ホットタオル”の作り方を紹介！

いざというときや日常の清拭に役立つホットタオルの作り方について教えてくださいました。用意するものはタオル2枚と紙コップ1個、スーパーでもらえる透明なビニール袋1枚です。タオル1枚をじゃばら状にしてビニール袋に入れます。紙コップ7～8分目くらいにお湯を入れ、ビニール袋に注ぎます。火傷に注意しながら、もう1枚のタオルでビニールを包みます。全体へお湯を染み渡すようにも見込めば完成です。



地域・企業・NPO等連携災害支援ネットワーク会議

長野県生活協同組合連合会、長野県NPOセンター、日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会、長野県長寿社会開発センター、長野県共同募金会、日本労働組合総連合会長野県連合会、長野県社会福祉協議会、長野県

（裏面もあります）



この事業は、赤い羽根共同募金の配分金で実施されています

森井 謙一 さん

日本郵便株式会社信越支社に勤務しています。総務担当部長。郵便局を地域の安心していただく拠点として、災害時にどんなことができるかのきっかけとして参加しました。信越支社はそれぞれの郵便局をつなぐハブのようなところですよ。何かあれば情報収集や応援要請をします。また、郵便局全体で各自治体と協定を結んでおり、道路状況等を情報共有しています。各郵便局の局長さんは、防災士の資格を持っている方が多いです。地域の防災・減災に取り組むよう自主的に勉強されています。ぜひ、地域の防災関係に声をかけていただきたいです。

村田 憲明 さん

普段は建設関係の仕事に従事。「ながの災害防災ネットワークみらい」の副代表をしております。ながのみらいは任意団体。経緯は、東日本大震災のときに長野市で災害ボランティア委員会ができ、大槌町への支援を開始。その仲間が熊本地震等の支援をするために集まりましたのがきっかけです。関市や呉市へ仲間や市民、大学生に声をかけてボランティア活動をしたり、地域の防災・減災に尽力しています。私自身は、は地域の防災運動会の開催や住んでいる地区で防災に関するアンケートを実施し、防災・減災活動に取り組んでいます。

小池 玲子 さん（諏訪市）

防災に関わるきっかけは、児童育成団体を立ち上げた際に、子どもたちがケガをしてもいいように応急手当普及員の資格を取得した時からです。その後、児童育成団体のほうから社会教育委員、応急手当普及員のほうから災害関係に呼ばれるようになりました。現在は諏訪市の防災委員。また、県の自主防災アドバイザーになったのをきっかけに防災士の資格を取得。災害に関わるワークショップ等を実施しています。現在、諏訪市では技術を持っている人がたくさんいます。つながっていきけるように、このつながるBOOKのようなプラットフォームを作っていきたいと思います。

有賀 元栄 さん

もともとは人工臓器の開発に携わっていました。腎臓移植等のお手伝いをし、その後は一般の会社に勤めました。平成15年に長野県の災害ボランティアコーディネーターの研修を受け、平成17年に防災士の資格を取得。日本防災士会長野県支部を立ち上げました。資格を活かして、地区の防災体制を作っていきたいと考えています。長野県地域防災推進協議会の会長を務めており、地域の防災・減災を目指し、より実践的な訓練を実施していききたいと考えています。

今回は8月29日（木）16：00～です。
皆様のご参加お待ちしております。